

Hot And New South Akita Npo

# ハンカチン 10

October  
2016  
Vol.116



早かごレース (タイムレース) の様子



## ◆表紙の紹介◆「後三年秋の陣 in 金澤」

### 後三年秋の陣 in 金澤実行委員会

中学校や小学校の学校統廃合、少子化高齢化の影響で元気がなくなっている横手市金沢地区に活気を取り戻すため、旧金沢(横手市と美郷町)が一体となれる新しいお祭りが開催されました。若い人たちが実行委員になって進め、これまであまり交流のなかった横手市と美郷町の人たちに一体感が生まれていました。

## ◆目次◆

- |    |            |                     |
|----|------------|---------------------|
| P2 | アクティブシニア   | 元気の素 菅 正さん          |
| P3 | わくわくげんき    | 田沢湖ざっくばらんの会         |
| P4 | 助成金・イベント情報 |                     |
| P5 | 市民活動お役立ち情報 | あきた NPO 会議、日本女性会議など |
| P6 | 市民活動お役立ち情報 |                     |

市民活動情報およびボランティア募集掲示板を六郷高校に設置



地域でかがやくシニアをご紹介します

# アクティブシニア 元気の素



菅 正さん（湯沢市）  
正ちゃん工房

雪寄せ作業が楽になる雪カッターを開発し、平成27年度あきたビジネスプランコンテスト最優秀賞と秋田県バリアフリー推進賞を受賞した菅正さん（65歳）。自宅隣りにある正ちゃん工房と命名された“秘密基地”には、菅さんの発明や工夫により考案された試作品や完成品、それらを製作するための工具類が所狭しと置かれている。壁には、これまでの“発明活動”に対して贈られた賞状が15枚以上掲げられている。



試作を重ね完成した雪カッター（写真左）と賞金で購入したノボリを持つ菅さん

## 自分が楽しい。そして人にも楽になってもらいたい。

介護関係の仕事で30数年やってきた菅さんだが、実はその前にクルマ屋さんに勤めていたこともある。「工具が使いづらいと思って改良を加えたことが出発点だったかも」。自分が楽しみたいのが最初の動機だと言う。そして人にも楽になってもらいたいという思いになり新しい用具を作ってしまう。車椅子の前輪にソリを装着し雪の上でも移動可能にした「ウィリー」は、介護施設での体験の中から生まれたものだ。同じように菅さんが施設の中で生み出した福祉用具や遊具は100種類を数える。



湯沢市民大学で自身が発明した用具について解説する菅さん。前輪部がソリになったウィリー（写真左）のほか、輪投げなどの遊具類は100種類以上ある。

## 体験の中から発想が生まれる

一方、「消防ホース一本巻き」と命名された用具は、自ら地元消防団に所属し活動する中から生まれた。消防ホースを巻き取るのに腰を屈めなければならず、立ったまま巻き取ることができれば撤収作業がどんなに楽になるだろうと思い考案された実に秀逸な装置だ。

全て自身の仕事や生活、地域活動の体験の中で生み出されたものである。前述の雪カッターも、数年前から雪下ろしが難儀に感じるようになり、もっと楽に効率よく雪寄せする方法は無いものかと考えたのが開発の始まり。4つの試作モデルを経て改良を重ね、現在の型式に辿り着くまで8年かかった。

## 使った人がイキイキと変化するのを見るとうれしくてやめられなくなる。

菅さんが次々と新しいものを生み出す原動力は何なのか。「同じ介護用品でも使える人と使えない人がいるんですよ。気持ちの問題もあるけど、こんなこともできなくなったと落ち込む人もいます。誰もが人間らしく生きていきたい、なんとか解消してあげたいと思う。実際に解消してあげることでイキイキとなる。」その変化を見ることがやりがい、生きがいとなり、また次の作品を考え出す意欲につながっていく。

「もうやめようと思ってもなかなかやめられないんですよ」と笑いながら話す菅さんに、これから先のことを聞いてみた。「あまり無理をしない程度にゆっくり続けたい」とのこと。

もうすぐ豪雪の冬を迎える県南部。菅さんの雪カッターはホームセンターにも並ぶようになった。「売上のためというよりは、せっかく作った道具の利便さを感じてもらいたいです。」発明少年のような心と控えめな人柄が滲み出る。

（高橋 茂）



実用新案申請中のガイド付スノーダンプ柄の前方が刃のようになっている。

# わくわくげんき Vol.5



田沢湖の白浜

仙北市田沢湖地域の活性化を願い、田沢湖の白浜の「鳴砂」の復活に向けた活動を行っている「田沢湖ざっくばらんの会」の代表 田口寿宜さん、副代表 千葉薫さんに取材しました。

今回は田沢湖の鳴砂保護団体「田沢湖ざっくばらんの会」の田口さんと千葉さんのお二人を取材させてもらった。田沢湖ざっくばらんの会では鳴砂を保護する活動を10年間続けている。戦時中に失われた鳴砂本来の姿を取り戻すため、大仙市や県内外の大学と連携し、水質や改善方法などを調査している。砂が鳴くには、70%のセキエイがなければ鳴らない。田沢湖は100%のセキエイがあるのだが、現在は残念ながら土砂が多く鳴かず、鳴らない要因として玉川ダムによる酸性水の流入や水量調節が挙げられている。砂が鳴くにはかなりの努力が必要であり、長い期間をかけ少しずつ状態を良くすることが求められるため、長い目で見る必要がある。鳴砂保護を通して地域の小中学生との清掃活動をしており、地域に興味を持たせたいとのこと。千葉さんは将来的に鳴砂を綺麗にして、ビーチバレー大会を開催したいと語ってくれた。

(菅原寛人)



右/代表：田口 寿宜さん  
左/副代表：千葉 薫さん



## 取材して感じたこと

今回の取材は自分達が大切にしているものをどのように保護・管理することや日々前進していくことの難しさを実際に感じた取材でした。自然は人の不可領域であり、手を加えると簡単に崩れ去るのは当たり前である中で、僕たちにできる活動はかなり限られ、保護・管理に妥協しなければいけない部分が多くあります。ですが、千葉さん、田口さん達は常に自然との調和を考え、様々なアクションを取り対応しています。このような人達のおかげで自然豊かな田沢湖を見ていることを再認識した取材でした。

(菅原寛人)

今回取材した「田沢湖ざっくばらんの会」は、平成18年に「田沢湖ざっくばらんに語る会」の名前で設立。田沢湖の白浜の保全、鳴砂の調査研究、田沢湖の水質調査を主に活動を行っている。鳴砂とは、上を歩くと砂が振動し合い「クックッ」、「プップ」という音を出す砂。昭和40年ころまで鳴っていたが、周辺の道路の工事や、戦時中の国策で玉川から水を引いてきた結果による水位の変化などで現在はまったく鳴らなくなってしまっている。また、田沢湖の現在の水質は食物連鎖が生まれにくい状態であるという。これも戦時中の国策によるものだそう。当時田沢湖に住んでいた生物はいなくなってしまったという。これらを改善していくことが、この「ざっくばらんの会」の大きい目標だと代表の田口さんは話す。

田口さんが活動を始めたきっかけは、田沢湖地域に元気がないように感じ、このままではいけないと思ったから。本業をこなしつつ、田沢湖の自然を守ることに奮闘している。しかし、やはり様々な問題も出てくる。ボランティアに参加してくれる方や提携を結んでいる地域の方々と協力してこれからも活動に努めていくそう。地元を自然を守るため日々試行錯誤を続ける「ざっくばらんの会」。今後の動きに注目していきたい。

(岩田健太郎)

今回の取材で、田沢湖からますます近い所に住んでいる自分ですが、このように自然を守るため尽力している人達がいたということを知らなかった。このことが少し恥ずかしくも感じ、同時に「ざっくばらんの会」は素晴らしいと思いました。また、自然というもののバランスのもろさのようなものを知ることができました。環境を悪くしていくことはとても簡単だが、良くしていくことはとても難しいということがはっきり理解できました。生命がたくさんあふれる田沢湖をぜひとも取り戻して欲しいと思います。

(岩田健太郎)

## ◆助成金・イベント情報◆

### 平成 29 年度キリン・子育て応援事業 公募助成

助成対象として、地域における子育てに関わるボランティア活動。「地域」「子育て（未成年者）」「ボランティア」のキーワードに合致するものに助成する。

募集締切：平成 28 年 11 月 7 日(月)

助成金額：1 団体あたり上限 30 万円

対象団体：18 歳以上のメンバーが 4 名以上で活動する団体

問合せ先：公益財団法人キリン福祉財団

TEL：03-6837-7013

<http://www.kirinholdings.co.jp/foundation/>



### 2017 年度 協働団体募集未来につなぐふるさと基金

地球温暖化とともに深刻化する生物多様性保全に向けて、「子どもたちの未来に、多様な生物を育む美しく緑豊かなふるさとを残すこと」を目的に、生物多様性の大切さを伝える活動を応援。

応募締切：平成 28 年 11 月 2 日(水)

制度内容：1 団体あたり 50 万円

問合せ先：(公財)パブリックリソース財団  
未来につなぐふるさと基金

TEL：03-5540-6256



### NPO 基盤強化資金助成（組織の強化、事業活動の強化、認定 NPO 法人の取得）

福祉及び文化の向上に資することを目的に、主として障害児・者、高齢者などを対象として活動する NPO 支援、社会福祉の学術文献表彰、学術研究・文化活動の助成などを実施。

応募締切：平成 28 年 10 月 31 日(月)

助成金額：30 万円コース、50 万円コース

問合せ先：公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団

<http://www.sjnkwf.org/>

TEL：03-3349-9570



### 年賀寄付金配分団体募集

平成 29 年度のお年玉付き郵便はがき及び切手の寄付金を法律に従って、国民の福祉の増進を図ることを目的として配分。

応募締切：平成 28 年 11 月 11 日(金)消印有効

概要：50 万円から 500 万円 一般枠（人材育成、啓発、イベント、施設改修、機器購入、車両購入等）

問合せ：日本郵便株式会社

総務部内 年賀寄付金事務局

TEL：(直通) 03-3504-4401



### とうほく IPPO プロジェクト 6 期

株式会社フェリシモでは、東日本大震災に対する息の長い復興支援の必要性から、2012 年より女性による東北の産業復興を支援する「とうほく IPPO プロジェクト」を発足。責任者、主体者が女性を条件に、プロジェクト・事業活動提案を公募し、審査の結果選ばれた個人・団体に支援金を支給。

締切：平成 28 年 10 月 25 日(火)

支援金：最大 300 万円までを上限

連絡先：とうほく IPPO プロジェクト事務局宛

TEL：078-325-5700



### 花咲かせ☆子どもの芸術体験ひろば 2016

花咲かせプロジェクトは、東日本大震災の支援から始まり、大人からの協力金を集め、子どもたちに優れた生の舞台を無料で届けるこの取り組みは、その後“子どもの貧困”にも対応できるものとして全国に広がって来ている。

日程：平成 28 年 10 月 30 日(日) 開場 13:00~

場所：横手市民会館

参加費：子ども無料、大人一口 1,000 円以上

問合せ先：横手おやこ劇場

TEL：0182-33-0812



### 第 12 回 TOTO 水環境基金

水とくらしの関係を見直し、再生することを目指した創造的な取り組みを支援。TOTO 創立 100 周年記念事業として、内容を充実。

応募期間：平成 28 年 10 月 1 日(水)~11 月 15 日(火)

助成金額：1 件につき上限 300 万円

助成費目：活動や事業に必要な経費

問合せ先：TOTO 株式会社

総務部総務第二グループ

TEL：093-951-2224



活動資金調達をお考えの NPO 法人・市民活動団体向けの助成金情報です。

申請書の書き方等の相談を受け付けております。

ご相談(0182-33-7002)ください。

休館日(木曜日)

## NEWS

### 【まなぶ! つながる! あきたNPO会議】 ～NPO活動が秋田を変える～

地域の課題解決などに取り組む市民活動団体の役割や課題について、NPO・企業・行政等と一緒にまなびあう場を設け、さらなる活動の活性化を目指します。

- ◆実施日：平成28年10月16日(日)
- ◆時間：13:00～16:00
- ◆会場：遊学舎 会議棟、研修室1・2・3・6  
秋田市上北手荒巻字堺切 24-2  
018-829-5801
- ◆分科会内容
  - ①しらないと損! 資金面の応援情報
  - ②「できない」が「できる」に変わる、「協働」とは?
  - ③みんなどうしている? めんどろNPO手続き
  - ④伝わっていますか? あなたの団体情報
- ◆申込み先
  - 県北：秋田県北NPO支援センター  
0186-49-8553
  - 中央：あきたパートナーシップ  
018-829-5801
  - 県南：秋田県南NPOセンター  
0182-33-7002



※当日参加も可能です。

### 【日本女性会議 2016 秋田】 みつめて みとめて あなたと私

秋田市において、10月28日(金)～30日(日)の3日間、日本女性会議が開催されます。日本女性会議とは、社会の変化に伴うさまざまな課題を男女共同参画の視点で考える、参加者相互の交流や情報交換を目的とした全国規模の会議です。1日目は、記念講演。2日目は、地域づくりや子育てなどの10の分科会に分かれ話し合います。3日目は、シンポジウムが開かれます。



### 【第16回あきたスギッチファンド募集開始】

- ◆募集期間：平成28年10月14日(金)～11月14日(月)
- ◆助成ファンド
  - ・本ファンド  
秋田県内で行われる地域課題を解決する活動であり、団体等が自ら企画する事業で、単独あるいは数団体が協働する事業を対象とする。  
上限10万円、30万円、50万円
  - ・冠ファンド  
活力ある高齢社会づくりファンド  
上限30万円
  - ・分野指定ファンド  
若者の活動を応援するファンド  
上限10万円
- ◆申込み先
  - 県北：秋田県北NPO支援センター  
0186-49-8553
  - 中央：あきたパートナーシップ  
018-829-5801
  - 県南：秋田県南NPOセンター  
0182-33-7002

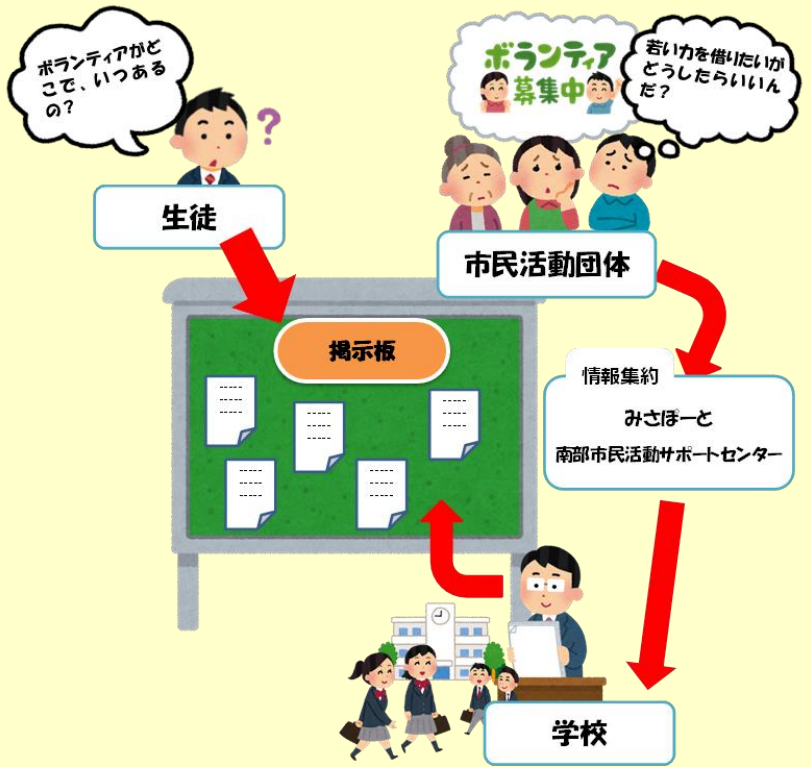
REPORT

高校に設置!!

市民活動情報およびボランティア募集掲示板

六郷高校では、ボランティアをしたいという生徒がたくさんいます。ところが、生徒がボランティアに対して「いつあるの?」「どこで活動しているの?」「参加するには、なにをどんなふうにしたらいい?」という疑問を持っている現状があります。高校では、農作業やお祭りのスタッフボランティアとして活動をしています。ところが、ボランティアを必要としている市民活動団体が「若い力を借りたい」、「一緒に活動を盛り上げてほしい」という団体の声が届かない現状もあります。

そこで、高校では生徒の「思い」と市民活動団体の「思い」の懸け橋になる方法はないかと考えていました。生徒が毎日目に触れる場所で気になる情報を、自然に収集できる環境にすることがいいのではないかとこの考えから、玄関にある自動販売機の横に「市民活動情報およびボランティア募集掲示板」を高校で設置しました。



情報提供の流れ



ぜひ、高校生が市民活動に参加をしてほしいと考えている団体の方は、美郷町のNPO法人「みさぽーと」または「南部市民活動サポートセンター」までご連絡を。市民活動への意欲のある若者と一緒に活動致しましょう。

編集スタッフの VOL.6 つぶやき

サポートセンター長 高城恵子

県南地区は稲刈り作業の真っ最中です。美味しい新米を味わう度に、秋田の食の豊かさを実感しています。10月は全国女性会議が秋田市で開催されるなど行事が目白押しです。県外から訪れた方に、秋田の魅力を発信し観光や移住定住の情報をお持ち帰りいただきたいものです。そんな中、市民活動団体の皆様には、10月16日(日)遊学舎において「まなぶ! つながる! 秋田NPO会議」～NPO活動が秋田を変える～にぜひご参加ください。NPOが企業・行政と一緒に学び合う場でもあり、全県のNPOの活動を知るチャンスにもなります。

秋田県ボランティア・NPO 活動ニュース県南版

ハンサン

2016年10月10日発行

10月号 VOL.116

発行：秋田県企画振興部地域活力創造課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南 NPO センター

(南部市民活動サポートセンター)

〒013-0046 横手市神明町 1-9



南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00~18:00 土 9:00~17:00

【休館日】木曜日・年末年始(12/29~1/3)

〒013-0046 横手市神明町 1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail : ssc7002@luck.ocn.ne.jp

http://www.akita-kenmin.jp/hq030001